

令和7年度

全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の充実に向けて

清水町教育委員会

～全体的な傾向～

令和7年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語・算数・理科において全国・全道平均を下回りました。中学校では国語において全国・全道平均を上回り、数学においては全国・全道平均を下回りました。理科においてはＩＲＴスコアで示され、全国・全道平均を上回りました。

学習状況調査における児童生徒質問調査で、小学校においては、自己有用感について高い傾向が見られる一方、学習習慣や国語・算数・理科への関心について低い傾向が見られました。中学校においては、読書への関心や規範意識、向社会性について高い傾向が見られました。また、普段の勉強からタブレットやスマートフォンなどのＩＣＴ機器を活用して勉強を行っている傾向が見られました。一方で、学習習慣や国語・算数・理科への関心について低い傾向が見られました。

清水町では”しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校・家庭・地域が織りこめるみで心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実させていくことが大切だと考えています。

学力 とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

三 つ の 柱

生きて働く「知識及び技能」

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力、人間性等」

本調査は、「三つの柱は相互に関係しながら形成されるもの」という考え方のもと、一体的に調査問題を構成したものとなっており、実生活に必要な知識・技能や活用する力等の状況を把握するものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問調査で聞きました。

令和7年度 全国学力・学習状況調査

【目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査対象】 小学校6年生、中学校3年生（清水町は全小・中学校4校で実施）

【実施日】 令和7年4月17日（木）

【調査事項及び手法】

○教科に関する調査 国語、算数・数学、理科の3教科

○質問調査 生活習慣や学習環境等に関する調査

教科全体の状況

【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
清水町 — 全国	↘	↘	↘	↗	↘	↗
清水町 — 北海道	↘	↘	↘	↗	↘	↗

※全国・全道平均に対する清水町の正答率及びIRTスコアの比較図（↗：上回った，↘：下回った）

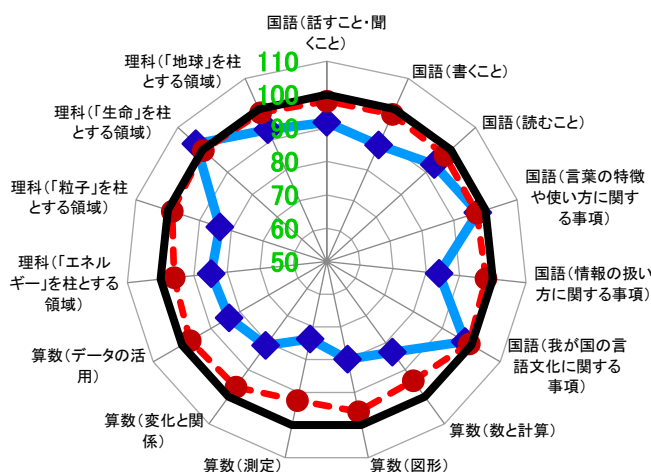
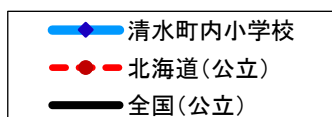
【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの。

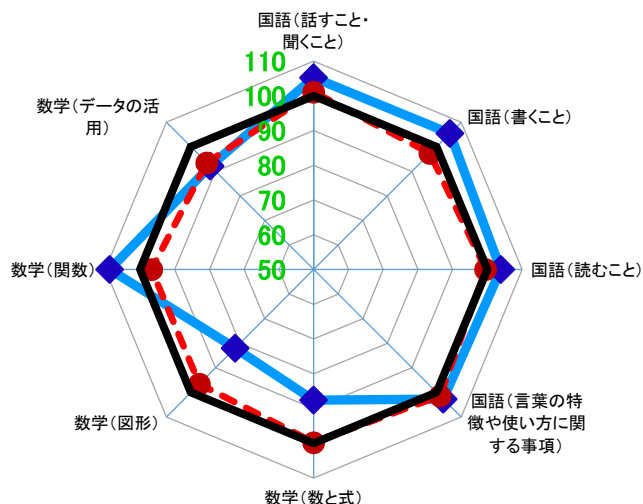
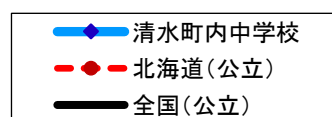
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

※中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示しておりません。

小学校



中学校



◆平均正答率及びレーダーチャートから読み取れること

○小学校

理科における『生命を柱とする領域』を除き、国語・算数・理科の3教科において全国・全道平均を下回りました。算数においては全体的に大きく下回り、『測定』領域で特に大きく下回りました。

○中学校

国語では全体的に全国平均を上回り、数学では『関数』領域で大きく上回りましたが、他領域で下回りました。理科においてはIRTスコアが全国平均を大きく上回りました。

※IRT (Item Response Theory: 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

これにより、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じ尺度で比較することができます。

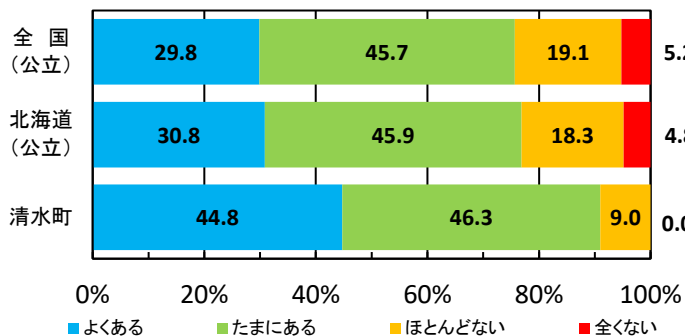
質問調査の状況

【児童生徒質問】

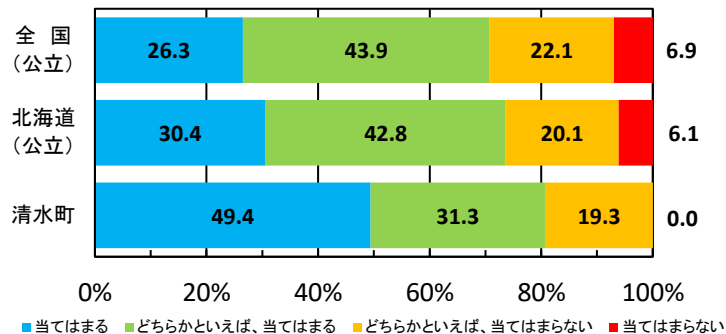
国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいませんか

理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか

小学校

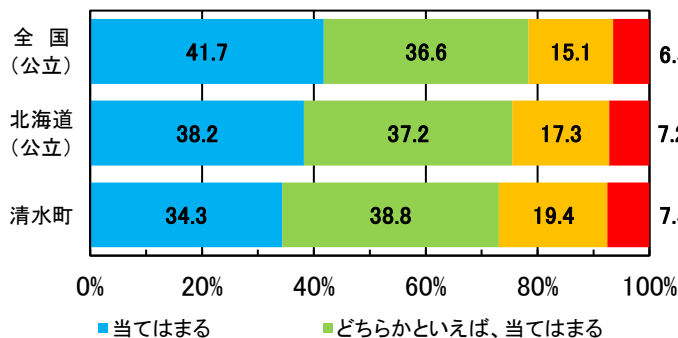


中学校

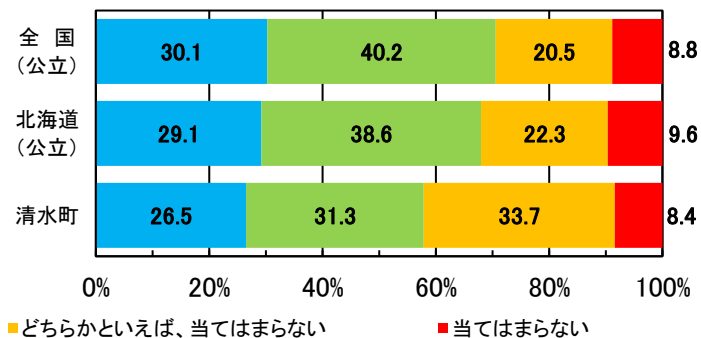


算数【数学】の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



中学校



◆児童質問調査から読み取れること

○小学校

国語の授業において『先生が学習で上手く出来ていないところを伝え、どうしたら上手く出来るようになるかを教えてくれる』と回答した児童が全国平均を上回りました。一方で、『算数の授業内容がよく分かる』と答えた児童は全国・全道平均を下回りました。

○中学校

理科の授業において『自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている』と回答した生徒は全国平均を上回りました。一方で、『数学の授業内容がよく分かる』と答えた生徒は全国・全道平均を下回りました。

※質問調査結果の一部を掲載しております。

※掲載しているグラフは、その他・無回答を除いているため、合計が100%に満たない場合があります。

～教科・質問調査から次のような傾向が明らかになりました～

○小学校

3教科全体で全国平均を下回っている中、国語におけるレーダーチャートの一部領域では全国平均に近いスコアを記録しました。これは国語の授業において、自分が分からないところを先生が教えてくれていることから、学習内容の一部の分野において理解が定着している可能性を示しています。

○中学校

理科の平均IRTスコアが全国・全道平均を大きく上回りました。これは理科の授業において、観察や実験が充実しており、問題解決や探求活動を通して身近な自然の事物や現象を学んでいくことで学習内容の理解がさらに深まっている可能性を示しています。

○小中学校

算数・数学の平均正答率及びレーダーチャートにおいて全国平均を下回っていました。これは算数・数学の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒が全国平均を下回っていたことから、授業内容がよく分からないまま苦手意識を持ってしまい、普段の生活でも上手く活用できていないことから、理解がまだ不十分である可能性があります。

調査結果から見える成果と課題



◇教師のきめ細やかな指導が子どもたちの理解に繋がる

◇観察・実験を通じた探求活動のプロセスで深まる理解

◇「好き」や「分かる」を意識した授業の工夫改善

次ページから各教科の傾向や課題、改善点を詳しく分析していきます！



小学校 6 年生 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語・算数・理科において、全国・全道平均を下回りました。

◆小学校 6 年生調査問題の趣旨・内容

□国語

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類し、関係付けて話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題など

□算数

○日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉えて考察できるかどうかをみる問題など

○日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかどうかをみる問題など

□理科

○解決するための実験を発想し、結果を基に考察しながら問題を解決できるかどうかをみる問題など

○町内小学校 6 年生の学力の傾向

国語・算数・理科において、全国・全道平均を下回る正答率であり、課題が見られます。国語の記述式問題の回答は全国・全道平均を上回る正答率で改善傾向が見られます。

○課題と対応

国語において、思考力・判断力に課題があると言えます。「記述式問題」は改善が見られるので、問われたことを理解する力を重視した指導が必要です。

算数については、基本的な知識・技能の底上げとともに立式するための思考力を育んでいくことが必要と言えます。

基礎的な知識・技能の学びを学校での学習だけではなく、家庭学習においても日常的に深めていくこと、得た学びから考えたことを自分の言葉でまとめることを意識させる必要があります。

中学校 3 年生 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率・IRTスコアは、国語・理科において、全国・全道平均を上回りました。

◆中学校 3 学年調査問題の趣旨・内容

□国語

○案内文を書く場面において、文章の構成や展開を考え、根拠を明確に表現できるかどうかをみる問題など

□数学

○数や式、図、表、グラフなどを活用して、数学的に処理することができるかどうかをみる問題など

○図形の性質を考察する場面で、特徴を的確に捉えることができるかどうかをみる問題など

□理科

○日常生活や社会と関連付けながら学んだ知識及び技能を活用することができるかどうかをみる問題など

○町内中学校 3 年生の学力の傾向

国語において、全国・全道平均を上回る正答率であり、基礎的な知識・技能及びそれらを活用する思考力・判断力・表現力等が一定程度身に付いていると言えます。

数学の記述式問題では、正答率が低くなっている傾向が窺えます。

○課題と対応

国語において、どの内容、観点、問題形式とも全国・全道平均を上回っており、取組の成果が表れてきていると考えられます。

数学において、基本的な知識・技能の力量アップを育むために、生徒に応じた取組が重要になっていきます。

家庭学習に取り組む中で、興味・関心を育み、主体的に学びに取り組むことが必要です。

～調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました～

◎小学校

国語

◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができる

話し合いの内容を記録する際には、関係付けの仕方、関係の表し方を理解し使うことを通して、考えをより明確なものにし、思考をまとめることが重要です。
他にも、原因と結果などとの関係について理解するよう学習を進めることが大切です。
また、ICT機器等も活用し、普段の授業からまとめることが大切です。

◇書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作り、段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えることができる

文章の構成を考えて書くためには、内容のまとまりで文章を作り、相互の関係に注意することが大切です。
また、図表やグラフを用いたりするなど、書き表し方を工夫することも相手に伝わりやすくなるために重要です。

★各家庭での実践

本や新聞などの文章を読み、自分の考えをまとめ、タブレット等を用いて友人などと共有して、良いところやもっと工夫できるところを伝え合うことが大切です。

算数

◇伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察し、捉える。

問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて表現できるよう筋道を立てて考えていくことが大切です。
また、秤（はかり）を用いて測定する際に、最小目盛りの大きさを考えて、目盛りを読むことができるようにすることが重要です。

◇図形において、辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して図形を弁別でき、面積の求め方などを式や言葉を用いて表現できる。

基本的な図形の意味や性質について理解することが大切です。数学的活動を通して、図形の構成要素を押さえることが大切です。さらに、面積や体積を求めるような場面では、これが大きな影響を与えることがあるので重要です。
多角形の面積等は基本図形の面積の求め方を基に考察できるようにすることが大切です。

★各家庭での実践

家庭での買い物や料理など日常生活の中で、身近にある数量に目を向けて概数の計算や割合の変化を捉えられるように、保護者が児童に対して積極的に問いかけて考えさせることも大切です。お菓子作りなどで秤を使って最小目盛りを確認して測る活動も良い経験です。

理科

◇水の温まり方について、解決の方法を発想しながら問題を解決できるか、水に関する知識を概念的に理解している。

理科で学習した知識を基に概念的に理解しているかどうか大切です。予想を基に解決するための観察・実験の方法を発想し、表現することが求められています。

また、自然の事物・現象と知識を関係付け、知識を相互に関連付けることで、理解を深めることが重要です。

◇自然の性質や規則性を適用したものづくりについて、学習したことを活用し、解決の方法を発想しながら問題を解決できる。

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられる物があることの知識が身に付いており、実験の方法を発想し、表現することができるかどうか大切です。科学的に探究し、問題を解決していく力を育むことが重要です。

また、電気の回路の作り方について、電気を通す繋ぎ方と電気を通さない繋ぎ方があること、電気を通す物と電気を通さない物があることを理解し、解決するための観察や実験の方法を発想し、表現することができるようにすることが大切です。

★各家庭での実践

家庭学習の中で、自然現象について、話題にし、疑問に思ったことを調べたりすることが大切です。日常生活の中の多くの科学的事象にも目を向けて生活を送ることも今後に生かされる素地となります。

◎中学校

国語

◇文学的な文章を読む場面において、表現の効果や構成・展開について、根拠を明確にして考えることができる。

学習指導要領の内容や評価の観点のどの区分においても全国・全道平均を上回っていますが、「読むこと」の一つの設問で下回ったものがありました。「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関して資質・能力を身に付けることができるよう、意図的・計画的に指導を重ねることが大切です。

また、構成や展開がどのような効果に繋がるのか、自分なりの意味付けをすることも重要です。

◇自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。

自分の考えが伝わる文章になるように、表現の効果を考えて準備することが大切です。話す場面では、相手の反応を踏まえながら表現を工夫し、聞き手の興味・関心や情報量などを考慮しながら語句を選択し、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意することも重要です。

★各家庭での実践

日頃から新聞や本などを読むことによって、文章の構成や引用の仕方を学び、心情を表す言葉や情景を表す言葉など、より多くの言葉を学ぶことが大切です。

ただ、読むだけではなく、読み解いて理解を深める中で自分の考えをまとめられるようにしていくことも重要です。

数学

◇図形において、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する。

図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを証明し、条件を変えて共通する性質を見いだすなど統合的・発展的に考察することや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことが大切です。

また、基本的な性質を論理的に確かめ、証明を読んで新たな性質を見いだすことも大切です。

◇事象を数学的に考察する場面において、事象に即して解釈し、見いだした事柄や成り立つ理由を説明する。

命題や事柄が常に成り立つとは限らないことを、反例を一つ挙げ、それを根拠として説明できるようにすることが大切です。また、文字を用いた式について、数学的活動を通して具体的な場面で活用することができるよう指導することも重要です。

問題解決の過程や結果を振り返りながら、統合的・発展的に考察できるようにすることも大切です。

★各家庭での実践

家庭学習の中で、理論的に問題を考察し、自分の言葉で説明できるように取り組むことやICT機器等を使って他者と色々な考えを共有し、理解を深めることが大切です。

◇元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている。

中学校理科は、今回からＩＲＴスコアで示されるようになりました。学習指導要領の４つの領域「エネルギー」、「科学」、「生命」、「地球」全てから出題され、学カスコアを推定していますが、全領域で全国・全道の平均正答率を上回っています。

元素記号については、覚えていなければ回答できないので、身に付けていくことが大切になっていきます。

◇大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、
地層の広がりを検討して表現できる

土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて考察できるかが大切です。重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できるかどうかも大切です。

地域の言い伝えを科学的に探究する場面で、知識及び技能を関連付けて推定できるかどうか重要です。

★各家庭での実践

地球温暖化の影響も含め、近年の気象状況は以前と比べて大きく変化してきています。家庭でも話題にして、自然現象について興味・関心を高め、「なぜだろう？」、「どうしてだろう？」と理論的に問題を考察し、自分の言葉で説明できるようにすることが大切です。

町内児童生徒 質問調査結果概要

質問調査結果

小学生は、自己有用感が全国・全道平均を上回りましたが、学習習慣やＩＣＴを活用した学習状況、国語・算数・理科への関心が特に全国平均を下回りました。
中学生は、生活習慣や読書への関心、向社会性が全国・全道平均を上回りましたが、学習習慣や主体的な学習の調整が全国平均を下回りました。

◆質問調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を実施し、学力と相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する興味・関心、②規範意識・自己有用感、③学習の基盤となる生活・学習習慣について調査が行われました。

○町内小学校６年生の学習習慣や生活習慣等の傾向

全国と比べて、「授業や放課後などで地域の大人との関わりがある」・「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」の項目において高い傾向が見られました。

一方で、「国語・算数・理科の勉強が好きか」・「学校の授業以外に、普段どのくらい勉強をするか」・「ＩＣＴ機器を使って文章の作成や情報整理（図、表、グラフなど）をすることができるか」などの項目において低い傾向が見られました。

○町内中学校３年生の学習習慣や生活習慣等の傾向

全国と比べて、「地域や社会をよくするために何かをしたいと思う」・「人が困っているときは進んで助ける」・「新聞をどのくらい読んでいるか」の項目において高い傾向が見られました。

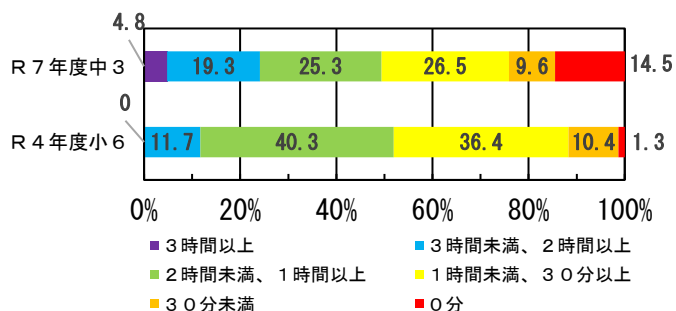
一方で、「学校の授業以外に、普段どのくらい勉強をするか」・「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」などの項目において低い傾向が見られました。

○課題と対応

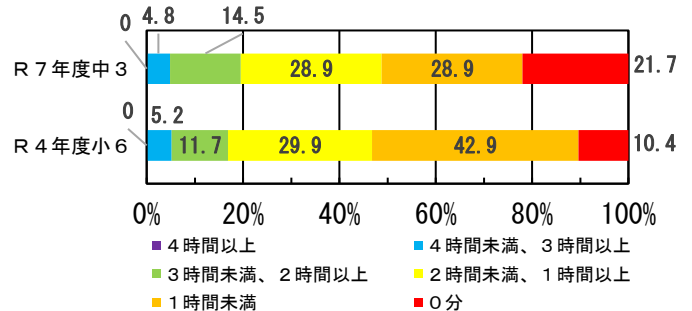
まずは学校全体で課題を共有し、「好き」や「分かる」を意識した授業を展開していくことで児童生徒の関心や学習意欲のより一層の向上を図り、そこから確かな学力を身に付けるために家庭学習の充実へ繋げていく必要があります。また、児童生徒の思考力や表現力などを高めるためにＩＣＴ機器の効果的な活用が必要です。

町内中学校３年生における前回調査（小学校６年生時）からの変化

平日の勉強時間



休日の勉強時間



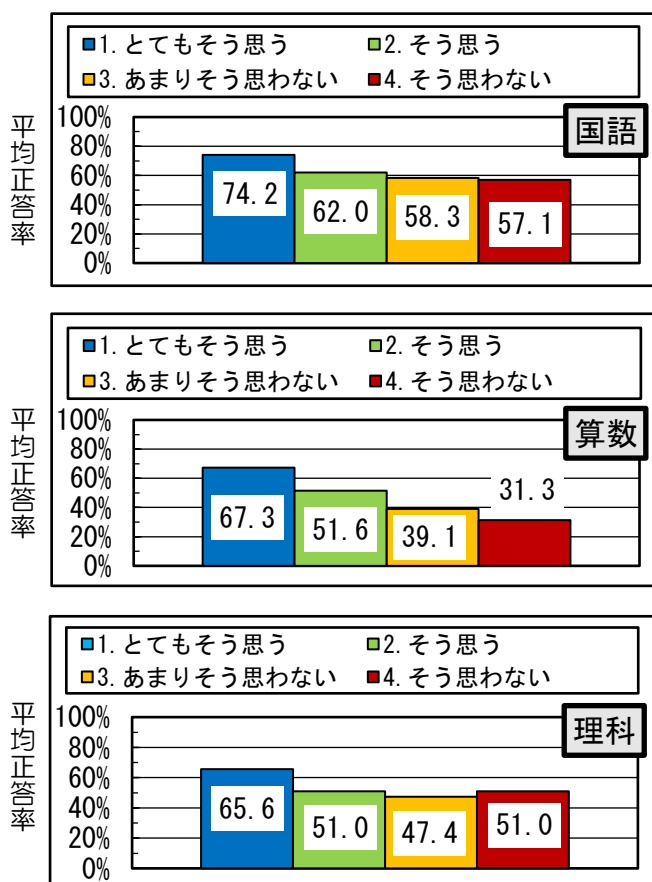
勉強時間について、平日は小学校６年生時では１時間前後が多く占めていましたが、中学校３年生時では３０分未満の割合が増え、休日は小学校６年生時と比べて１時間未満が全体の約８割を占めていました。これは中学校で部活動や友人との交流時間、ゲームや動画・ＳＮＳ視聴時間等が増加したことにより、勉強に費やす時間配分が減少した可能性を示しています。

一方で、中学校の国語及び理科の学力調査結果が全国平均と比べて高かったことから、学校の授業と短時間の復習によって学習した内容がしっかり定着していることが窺えます。さらに、小学校ではあまり見られなかった３～４時間以上勉強を行う割合が中学校で増えたことから、普段の学習に加えてテストや受験を見据えた学習内容のさらなる理解に努める傾向も窺えます。

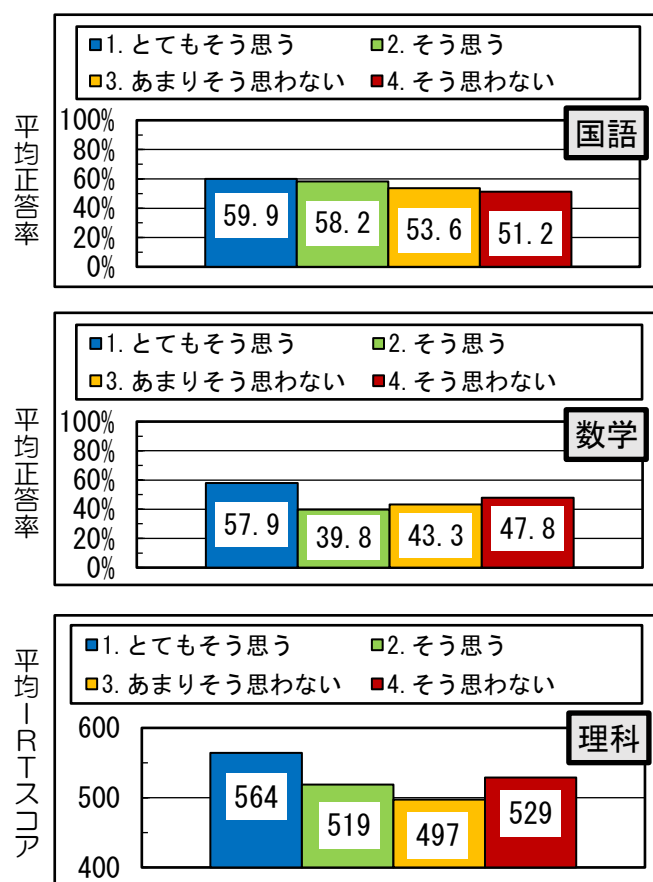
次の質問に対して、「とてもそう思う」・「そう思う」
 「あまりそう思わない」・「そう思わない」のいずれかを回答した
 児童生徒について、『国語』『算数（数学）』『理科』の３教科における
 平均正答率及び平均IRTスコアを示したグラフをそれぞれ作成し、
 それぞれの選択肢を選んだ児童生徒の正答率及びスコアを比較してみました。

『あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する
 （図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか？』

小学校



中学校



※中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアで結果を表示しております。

◇ ICT機器を用いて自分で調べ、学んだ情報を整理することができる。

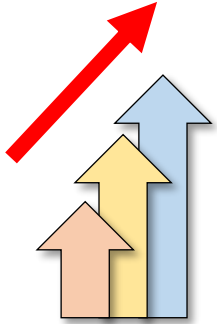
どの教科においても、「とてもそう思う」と回答した児童生徒の平均正答率及び平均IRTスコアが高い傾向にありました。これは全国においても同じ傾向にあります。タブレットやスマートフォンなどを上手く活用できていると自信がある児童生徒は、ICT機器を用いた情報収集や探求、発表などの学習活動がさらに充実し、その経験が普段の学習に活かされていると考えられます。

★各家庭での実践

家庭学習の中で、分からないことやもっと知りたいことについて、ICT機器等を使ってさらに理解を深めることが大切です。ただし、誤った情報には十分注意しましょう。



指導改善の方向性



○「三つの柱」を育成していくことを重視し、
確かな学力を確立するための学習活動を充実させましょう。

～知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう～

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、「まとめ」「振り返り」など学びをフィードバックさせる学習指導の工夫改善を図る。
- ・一人ひとりの習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実させる。

～思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、
実際に課題を探究する活動の実践に努めましょう～

- ・観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させ、自分の考えを持ち、伝わりやすい言葉で文章を作る能力を向上させる。

○「主体的・対話的で深い学び」から
学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

- ・児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
- ・タブレット等のＩＣＴ機器を活用し、児童生徒一人ひとりの学習場面が多様なものとなるように指導方法の充実を図る。
- ・地域の人材や加配教員による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度別指導など多様な指導によって児童生徒の学びを充実させる。



○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や
基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実させましょう。

- ・家庭においても日常生活の事象や体験から学びへと結びつけられるように疑問に対する興味関心を育てていく。
- ・子どもが自発的に学習を行えるように支援し、規則正しい生活リズムの中で学習時間を確保したりなど、各家庭が意識を持って取り組む。

○読書に対する意欲を高め、
読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

- ・全校一斉の読書活動、学校図書館の活用を通じて、文章の読解力を向上させる。
- ・毎月１９日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。



清水町教育研究所との連携

調査の結果を受けて、清水町教育研究所では十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいます。研究所の研究成果を参考に、各学校において日頃より実践研究に取り組むなど連携を図りながら、児童生徒の確かな学力の育成に努めます。